

2025 年度 研究所事業報告書

研究所名	白川静記念東洋文字文化研究所
------	----------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2025 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

白川静記念東洋文字文化研究所(以下「白川研」)の 2025 年度の研究成果を以下にまとめる。なお、2025 年度までは芳村弘道が 3 期 6 年にわたり所長を務めていたが、2026 年 3 月で退任したため、以下の報告は 2025 年度の副所長で、2026 年 4 月から所長を務めている湯浅邦弘がとりまとめた内容である。

白川研の通常の主な活動は、大きく分けると 3 つの「重点研究プロジェクト」による研究推進、『漢字学研究』や白川研『紀要』など研究成果を盛り込んだ学術誌の刊行、立命館白川静記念東洋文字文化賞(白川賞)の授与、漢字教育士や社会人を対象とする講演開催、創作漢字コンテストなどの社会事業、となる。これら定例の活動のほか、2025 年度は白川研創立 20 周年に当たることから、特筆すべき活動成果があった。まずはその二つの成果を取り上げる。

(1) 白川賞授賞式に合わせた特別講演会の実施

白川研創立 20 周年記念の特別講演会を実施した。白川静博士とも親交のあった作家の宮城谷昌光氏による講演を、白川賞授賞式に合わせて 9 月 27 日に衣笠キャンパス以学館ホールで開催し、約 300 名が受講する盛会となった。これにより、白川学を一層顕彰することができた。

(2) 白川静博士関係資料のデジタルアーカイブ化

白川博士に関わる未公開自筆資料が図書館・末川記念会館などに秘蔵されている。これらを一般にも公開すべくデジタルアーカイブ化に着手した。白川博士がみずからノートに記した古文字情報、トレーシングペーパーを使って写した甲骨文字の資料などである。これらは、膨大な白川学がどのような基礎作業によって生み出されたのかを知る貴重な資料群である。2025 年度は、このうちの約300カットのデジタル写真画像をデータベースに搭載した。次年度以降、本格的に推進し、「白川博士関係資料データベース」(仮称)として一般公開したい。

次に、定例事業として展開した主な研究成果を「重点研究プロジェクト」ごとに簡潔にまとめたい。

第 1 重点研究プロジェクトは、上記のデジタルアーカイブ化を担い、資料整理と並行してデジタル写真の撮影、データベースの構築に努めた。また、2025 年度から湯浅邦弘が研究プロジェクトに参加したことにより、これまでの甲骨文字や金文資料の研究に加えて、それに続く時代の竹簡・木簡の文字に関する共同研究を推進し、その成果となる 5 本の論考を白川研『紀要』第 19 号に「中国出土文献研究」特集として掲載した。

第 2 重点研究プロジェクト「日中韓漢籍研究」は東アジアに展開した漢籍について研究を進めるとともに、中国の南京大学、韓国の高麗大学校と提携した国際学会を年 1 回持ち回りで開催している。2025 年度は高麗大学校を会場に開催され、プロジェクトメンバーが渡航して研究発表を行った。ちなみに、2026 年度は南京大学、2027 年度は立命館大学での開催が予定されている。

第 3 重点研究プロジェクト「日本文献研究」は日本固有の文献を取り上げてその独自性や国際的意義を解明するものである。2025 年度は、近世の近衛家資料を対象として研究会合を重ね、そこには中国人研究者も参加した。なお、これらのプロジェクトの推進に際しては、いずれも大学院生や若手研究者の参画を促し、研究者の育成にも努めた。

最後に、産経新聞社との共催で実施している「創作漢字コンテスト」は次第に社会的認知を得て、年々応募件数も多くなり、中には学校や学級単位での応募もあった。柔軟な感性で漢字に親しんでもらう良い機会となっている。創設時からこのコンテストの選考委員長を務めていた加地伸行(白川研元所長)が 2026 年 3 月末をもって退任したが、白川研から継続して選考委員を選出し継続することになった。

Ⅱ. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
研究所長		芳村 弘道	衣笠研究機構	教授
運営委員		萩原 正樹	文学部	教授
		湯浅 邦弘	衣笠総合研究機構	教授
		加地 伸行	衣笠総合研究機構	研究顧問
		杉橋 隆夫	衣笠総合研究機構	研究顧問
		上野 隆三	文学部	教授
		松本 保宣	文学部	教授
		石井 真美子	文学部	教授
		川崎 佐知子	文学部	教授
		中本 大	文学部	教授
		尾崎 順一郎	文学部	准教授
		前田 亮	情報理工学部	教授
		湊 宣明	テクノロジーマネジメント研究科	教授
		後藤 文男	衣笠総合研究機構	上席研究員
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		向 静静	アジア・日本研究機構	助教
		金津 日出美	文学部	教授
		大田 壮一郎	文学部	教授
		小椋 秀樹	文学部	教授
		岡崎 友子	文学部	教授
		井上 充幸	文学部	教授
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	六車 楓	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント	本岡 真由子	文学研究科	博士課程後期課程
	③ 大学院生	兒玉 力哉	文学研究科	博士課程前期課程
		孫 悦妍	文学研究科	博士課程後期課程
		西山 直輝	文学研究科	博士課程後期課程
		砂田 和輝	文学研究科	博士課程後期課程
		ハラシュミック=ヲツシュ・ユスティナ	文学研究科	博士課程後期課程
		石谷 詩穂里	文学研究科	博士課程前期課程
		石垣 梨紗	文学研究科	博士課程前期課程
		大栢 夕依	文学研究科	博士課程前期課程
		張 志偉	文学研究科	博士課程後期課程

		王 愷珺	文学研究科	博士後期課程
		石田 尚也	文学研究科	博士前期課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)	六車楓	日本学術振興会 衣笠総合研究機構	特別研究員 PD 専門研究員
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		宮本 紗代	文学研究科	授業担当講師
		許 曉璐	文学研究科	授業担当講師・白 川研客員研究員
		山田 崇仁	文学部	授業担当講師・白 川研客員研究員
		落合 淳思	文学部	非常勤講師・白川 研客員研究員
		花田 卓司	立命館大学文学部 帝塚山大学文学部	非常勤講師 准教授
		今場 正美	文学部	非常勤講師
		松尾 肇子	文学部	授業担当勤講師
		高井 龍	文学部	授業担当勤講師
		中原 理恵	文学部	授業担当勤講師
		藤田 優子	文学部	授業担当講師
客員協力研究員		臧 克和 (上席研究員)	華東師範大学	終身教授
		張 莉 (出野文莉)	大阪教育大学	教授
		李 強	大阪物療大学	教授
		梁 曉虹	南山大学	教授
		周 祖亮	広西中医薬大学	教授
		志賀 市子	茨城キリスト教大学	教授
		井ノ口 哲也	東京学芸大学	教授
		陳 逸文	東呉大学(台湾)	助理教授
		末次 信行	千里金蘭大学	元教授
		村上 幸造	大阪工業大学	元教授
		名和 敏光	山梨県立大学	准教授
		西山 尚志	埼玉大学	准教授
		熊野 弘子	森ノ宮医療大学	准教授
		久保 輝幸	横浜商科大学	准教授
		高橋 あやの	大東文化大学	准教授
		山田 明広	奈良学園大学	准教授
		松川 雅信	神戸外国語大学	講師
		草野 友子	同志社大学	嘱託講師
		白須 裕之	京都大学人文科学研究所	助教
		山本 堯	泉屋博古館	学芸員
		笠川 直樹	京都精華学園	理事

	小倉 聖	大東文化大学	非常勤講師
	重信 あゆみ	森ノ宮医療大学	非常勤講師
	安永 知晃	関西学院大学	非常勤講師
	多田 伊織	大阪大学	非常勤講師
	望月 めぐみ	京都伝統校芸大学校	非常勤講師
	横大路 綾子	西山高校	非常勤講師
	島山 奈緒子	関西医療大学	東洋医学研究センター研究員
	秋山 陽一郎	大阪公立大学	客員研究員
	山本 優紀子	大阪公立大学	客員研究員
	佐藤 信弥	大阪公立大学	客員研究員
	関屋 成彰	せきや鍼灸院	院長
	石川 大我	早川書房	社員
	黄 鶯	福州大学外国語学院	講師
	高 語莎	北京外国語大学日語学院日本学研究センター	研究員
	高田 宗平	中央大学	兼任講師
	魯 耀翰	高麗大学校	研究教授
	靳 春雨	志学館大学	専任講師
	余 筠珺	台湾大学	副教授
	劉 宏輝	華東師範大学	講師
	詹 千慧	彰化師範大学	助理教授
	王 睿	海南大学	副研究員
その他の学外者	楊 月英	常州師範学院	講師
	村田 右富実	関西大学	教授
	笹原 宏之	早稲田大学	教授
	佐古 愛己	佛教大学歴史学部	教授
	郭 雪妮	陝西師範大学文学院	教授
	住吉 朋彦	慶應義塾大学	教授
	沈 慶昊	高麗大学校	教授
	金 程宇	南京大学	教授
	富 嘉吟	お茶の水女子大学	准教授
研究所構成員 計 94 名 (うち学内の若手研究者 計 13 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目）

※ページ数の制限は無し

※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。

また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数

1	湯浅邦弘	中国思想の基礎知識	単著	2025 年 10 月	KADOKAWA		全 486 頁
2	湯浅邦弘	菜根譚（新釈漢文大系）	単著	2025 年 12 月	明治書院		全 465 頁
3	湯浅邦弘	孔子は、いか に にして「神」 になったのか	単著	2026 年 2 月	NHK 出版		全 231 頁
4	小椋秀樹	書き言葉研究	単著	2026 年 3 月	明治書院、日本語学、2026 年 3 月号【電子版】春号	甲斐陸朗・荻野綱男・ 近藤泰弘監修	PP.34～39
5	佐古愛己	奈良・平安時代の官人・貴 族の疾病と欠勤届	単著	2026 年 3 月	臨川書店、鬼系の病因論― 疾病・疫病観の起源を探索	大形徹・山本優紀子・ 池内早紀子編	総頁数 592
6	大田壮一郎	家門と門跡―地蔵院の場合 ―	単著	2026 年 2 月	勉誠出版、アジア祐学 315 中・近世門跡論の可能性	近藤雄介・石津裕之 編	PP.82～105
7	金津日出美	中国における日本思想史研 究の方法論的問題―ある学 術史の回顧と展望―	共訳	2025 年 8 月	晃洋書房、近代中日思想文 化交渉史研究	劉岳兵著、白春岩監・ 金津日出美・鈴置拓 也・前川友太・殷農曦 訳	PP.306～346
8	今場正美	孟浩然詩訳注	単著	2025 年 10 月	中国芸文研究会		全 301 頁
9	高井 龍	Variety of Jātaka and Avadāna Transmission	共著	2025 年	Dev Publishers & Distributors	Peter Skilling, Monika Zin, Satomi Hiyama 等	PP.159～167
10	藤田優子	響きあう文学 長安から江 戸まで	共著	2025 年 10 月	汲古書院	井口千雪、小松謙等	P.85～102
11	松尾肇子	王昭君文化の展開	共著	2026 年 2 月	和泉書院	泉紀子、中尾薫等	pp.27～50

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者 名	担当頁数	査読有無
1	湯浅邦弘	安徽大学蔵戦国竹簡 『詩経』『仲尼曰』『曹 沫之陳』―思想史研 究の可能性―	単著	2026 年 3 月	立命館白川静記念東洋文字文 化研究所紀要、第 19 号		PP.19～25	無
2	湯浅邦弘	清華簡『参不韋』一文 献概要と著作意図―	単著	2026 年 3 月	立命館白川静記念東洋文字文 化研究所紀要、第 19 号		PP.49～54	無
3	草野友子	清華簡(七) 所収文献 解題―『子犯子余』 『晋文公入於晋』『趙 簡子』『越公其事』―	単著	2026 年 3 月	立命館白川静記念東洋文字文 化研究所紀要、第 19 号		PP.27～33	無
4	六車楓	清華簡『五紀』―概要 と五行思想について ―	単著	2026 年 3 月	立命館白川静記念東洋文字文 化研究所紀要、第 19 号		PP.45～48	無
5	近衛家の漢 学 研 究 会 (代表 川崎 佐知子)	『豫楽院殿詩文集殿 詩文集』抄譯注稿	共著	2026 年 3 月	立命館大学白川静記念東洋文 字文化研究所、立命館白川静 記念東洋文字文化研究所紀 要、第 19 号	著者 5 名 川崎佐知子、芳村 弘道、松尾肇子、 中本大、黄鶯	PP.117 ～ 135	
6	岡崎友子	大規模コーパスに基 づく接続詞の連続パ ターンのレジスター 分析	共著	2025 年 12 月	計量国語学、計量国語学会、35 巻 3 号	著者 2 名 小林雄一郎、岡崎 友子	PP.38～53	
7	岡崎友子	現場調査からみるベ トナム語の指示詞― 指示領域と感情・評 価の影響について―	共著	2025 年 12 月	論究日本文学、立命館大学日 本文学会、123 号	著者 2 名 岡崎友子、松田真 希子	PP.1～24	
8	小椋秀樹	明治期から平成期に おける接頭辞「非―・ 不―・未―・無―」の 変遷	単著	2025 年 12 月	論究日本文学、立命館大学日 本文学会、123 号		PP.25～39	
9	岡崎友子	現場調査からみる指 示詞コソアの選択― 評価・感情に焦点を あてる―	単著	2025 年 5 月	論究日本文学、立命館大学日 本文学会、122 号		PP.15～28	
10	住吉朋彦	天理図書館蔵五山版 考述(五) 禅籍之部下	単著	2025 年 5 月	天理図書館、ビブリア、163 号		PP.3～56	有

11	富嘉吟	唐李華文集流伝考	単著	2025 年 6 月	國立政治大學中國文學系, 政大中文學報, 43 号		PP.59~92	有
12	尾崎順一郎	清代前期における新安地域の朱子学について——紫陽書院と還古書院の学術動向を中心に	単著	2025 年 6 月	中国藝文研究会, 学林, 80 号		PP.26~60	有
13	王愷珺	田能村竹田『填詞図譜』の編纂方法—『詞律』『清綺軒詞選』との比較を通して—	単著	2025 年 6 月	中国藝文研究会, 学林, 80 号		PP.61~132	有
14	萩原正樹	武井見龍、吉田靈鳳と武井節庵の詞付・土井聿牙詞、佐藤一斎詞—神田博士『日本における中国文学』補遺	単著	2025 年 6 月	中国藝文研究会, 学林, 80 号		PP.133 ~ 165	有
15	藤田優子	The Boundary between Ci and Qu as Seen in Musical Tunes and Song Lyrics	単著	2025 年 8 月	東方学会, Acta Asiatica, No. 129		PP.1~18	無
16	松尾肇子	近卫家家主対苏轼詩文的接受	単著	2025 年 10 月	海南省第二届东坡文化国际论坛论文集		PP.278 ~ 288	無
17	張志偉	「夢窓詞」における詞調と宮調の関係について	単著	2025 年 12 月	日本詞曲学会, 風絮, 22 号		PP.29~67	有
18	王愷珺	田能村竹田詞校箋	単著	2025 年 12 月	日本詞曲学会, 風絮, 22 号		PP.68~122	有
19	尾崎順一郎	学界展望 (哲学) 近世 (明・清)	単著	2025 年 12 月	日本中国学会, 日本中国学会報, 77 集		PP.57~58	有
20	高井龍	小川貫弑師旧蔵資料における中央アジア出土写本の意義	単著	2026 年 3 月	世界仏教文化研究センター, 世界仏教文化研究論叢, 64 集		PP.19~60	有
21	松尾肇子・芳村弘道	「豫楽院殿詩文集」訳注	共著	2026 年 3 月	立命館白川静記念東洋文字文化研究所, 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, 19 号	「近衛家の漢学」研究班	PP.117 ~ 135	無
22	芳村弘道	〔書評〕後藤秋正『杜甫詩論考』	単著	2026 年 3 月	日本杜甫学会, 杜甫研究年報, 9 号		PP.67~80	無
23	高井龍	龍谷大学蔵「悉達太子修道因縁」写本考	単著	2026 年 3 月	立命館大学人文学会, 立命館文学, 697 号		PP.137 ~ 146	無
24	中原理恵	《王狀元集注東坡先生詩》伝本研究—以元刊本与五山版為中心	単著	2026 年 3 月	立命館大学人文学会, 立命館文学, 697 号		PP.205 ~ 220	無
25	藤田優子	詞曲における通俗的要素の受容—モチーフと表現の援用を通して	単著	2026 年 3 月	立命館大学人文学会, 立命館文学, 697 号		PP.315 ~ 327	無
26	尾崎順一郎	汪梧鳳『詩学女為』と戴震の詩経学との関連について	単著	2026 年 3 月	立命館大学人文学会, 立命館文学, 697 号		PP.363 ~ 375	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	金津日出美	東アジアとの邂逅	2026 年 1 月	近世・近代の思想と文化研究会 第1回研究会、キャンパスプラザ京都 (京都市下京区)	単独

2	金津日出美	帝国再編期日本の女性談論と日本人の再定義-雑誌『女性日本人』を中心に-	2026年1月	翰林大学校日本学研究所 第58回ワークショップ、翰林大学校日本学研究所（江原道春川市）	単独
3	川崎佐知子	『予楽院殿詩文集』52番詩	2025年11月	第45回近衛家の漢学研究会	単独
4	川崎佐知子	宗祇画像の一伝本—立命館大学蔵本の意義—	2025年10月	2025年度中世文学会秋季大会、大谷大学京都／本部キャンパス（京都市北区）	単独
5	黄鶯	『皇清詩選』における程順則詩について	2025年9月	2025年度和漢比較文学会第44回大会	単独
6	黄鶯	『予楽院殿詩文集』48番詩	2025年9月	第43回近衛家の漢学研究会	単独
7	黄鶯	『予楽院殿詩文集』47番詩	2025年7月	第42回近衛家の漢学研究会	単独
8	川崎佐知子	『予楽院殿詩文集』46番詩	2025年7月	第42回近衛家の漢学研究会	単独
9	中本大	『予楽院殿詩文集』45番詩	2025年6月	第41回近衛家の漢学研究会	単独
10	中原理恵	《王狀元集注東坡先生詩》——以宋元版和五山版為中心	2025年4月	南京大学文学院古逸論壇第二講、南京大学	
11	富嘉吟	佚存書研究の可能性について～『文館詞林』を例として～	2025年4月	お茶の水女子大学中文学会大会、お茶の水女子大学	
12	張志偉	「夢窓詞」における詞調と宮調の関係について	2025年5月	日本宋代文学学会、立命館大学衣笠キャンパス	
13	中原理恵	朝鮮刊《紫陽文集》考論	2025年9月	第九屆東亞漢籍交流國際學術會議、高麗大学校	
14	張志偉	「夢窓詞」における転調と犯調——兼ねて周邦彦・姜夔を論ず	2025年9月	中国芸文研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
15	井上充幸	《銅人腧穴針灸図経》研究の過去、現在と未来	2025年10月	「東アジアの知の架橋 第3回立命館大学×清華大学人文学シンポジウム」、立命館大学衣笠キャンパス	
16	中原理恵	《王狀元集注東坡先生詩》傳本研究——以宋刊本、明刊本与朝鮮金属活字印本为中心	2025年11月	海南省第三届东坡文化国际论坛、海南大学	
17	井上充幸	名古屋蓬左文庫所蔵『銅人腧穴鍼灸図経』拓本研究の現在地	2025年12月	「地球環境学と文理融合研究のその後」、名古屋大学東山キャンパス	
18	中原理恵	《王狀元集注東坡先生詩》伝本考	2025年12月	中央研究院「東亜文化交流視域下的城市書写」主題計画、中央研究院	
19	魯 耀翰	『善隣唱和』と『翠雲雅集』に現れる日韓文人の詩文唱和について	2026年2月	「朝鮮渡り唐本研究」「日中韓文人交流研究」の研究成果報告会、立命館大学衣笠キャンパス	
20	富 嘉吟	『楊仲弘集』の刊行および伝来について	2026年2月	「朝鮮渡り唐本研究」「日中韓文人交流研究」の研究成果報告会、立命館大学衣笠キャンパス	
21	中原理恵	《山谷詩注》考	2026年2月	「朝鮮渡り唐本研究」「日中韓文人交流研究」の研究成果報告会、立命館大学衣笠キャンパス	
22	余 筠珺	以詩填白：石川玄足の南画題跋及其創作實踐	2026年2月	「朝鮮渡り唐本研究」「日中韓文人交流研究」の研究成果報告会、立命館大学衣笠キャンパス	
23	住吉朋彦	古代日中出版印刷法の分岐点	2026年2月	「朝鮮渡り唐本研究」「日中韓文人交流研究」の研究成果報告会、立命館大学衣笠キャンパス	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第45回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025年11月	5名	

2	第44回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025年10月	5名	
3	第43回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025年9月	7名	
4	第42回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025年7月	6名	
5	第41回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025年6月	6名	
6	第40回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025年5月	6名	
7	第39回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025年4月	6名	
8	「朝鮮渡り唐本研究」「日中韓文人交流研究」の研究成果報告会	衣笠キャンパス	2026年2月	15名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	佐古愛己	第9回 平安貴族の仕事と昇進事情—能力・家柄・人脈—	宇治市源氏物語ミュージアム 令和7年度連続講座 紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクト 昂まる古典の魅力—よむ・みる・書き留める—	2026年2月
2	佐古愛己	Group Session K「衣服は、生活・文化をどのように支える・変えるのか？」	公益財団法人 国際高等研究所 全国キャラバン 3 Questions 関西地区編 大阪市・QUINTBRIDGE	2025年12月
3	佐古愛己	研究ポスター発表「平安時代の貴族社会と現代日本のつながり—人事・昇進方法や組織の仕組みから考える」	公益財団法人 国際高等研究所 全国キャラバン 3 Questions 関西地区編 大阪市・QUINTBRIDGE	2025年12月
4	川崎佐知子	白川研の貴重資料—「飯尾宗祇画像」の紹介—	立命館土曜講座 第3437回、立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館(京都市北区)+ZOOM ウェビナー	2025年12月
5	大田壮一郎	2025 年度歴史学研究会大会報告批判 (中世史部会 相馬和将報告)	歴史学研究 1067 号、PP.42-43	2025 年 12 月
6	大田壮一郎	書評：高島廉著『足利将軍家の政治秩序と寺院』	日本史研究 749 号、PP.72-79	2025 年 1 月
7	花田卓司	帝塚山大学所蔵の寂心田地売券—国宝になっていたかもしれない古文書—	月刊大和路ならら 323 号、PP.20-21	2025 年 8 月
8	花田卓司	2024 年の歴史学界—回顧と展望— (中世五 南北朝・室町期)	史学雑誌 134 編 5 号、PP.82-85	2025 年 5 月
9	花田卓司	鎌倉・南北朝期の軍事関係文書を読む—軍事関係文書から何がわかるか—	朝日カルチャーセンター (中之島教室)	2026 年 3 月
10	花田卓司	鎌倉・南北朝期の軍事関係文書を読む—戦功認定と恩賞給付の手続き—	朝日カルチャーセンター (中之島教室)	2026 年 2 月
11	花田卓司	鎌倉・南北朝期の軍事関係文書を読む—軍事動員・参陣のあり方—	朝日カルチャーセンター (中之島教室)	2026 年 2 月
12	花田卓司	足利尊氏の生涯とその人物像—足利尊氏と直冬—	朝日カルチャーセンター (中之島教室)	2025 年 9 月
13	花田卓司	足利尊氏の生涯とその人物像—足利尊氏と直義—	朝日カルチャーセンター (中之島教室)	2025 年 8 月
14	花田卓司	明応の政変—戦国時代の幕開け— (日本中世の戦乱—武士の時代を読み解く—)	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座 (前期)、西宮市民会館 (兵庫県西宮市)	2025 年 8 月
15	花田卓司	足利尊氏の生涯とその人物像—足利尊氏と後醍醐天皇—	朝日カルチャーセンター (中之島教室)	2025 年 8 月
16	花田卓司	三河国の足利一門 (鎌倉時代の足利氏—尊氏の祖先とその一族—)	中日文化センター (栄)	2025 年 8 月
17	花田卓司	応仁・文明の乱—勝者のいない大乱— (日本中世の戦乱—武士の時代を読み解く—)	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座 (前期)、西宮市民会館 (兵庫県西宮市)	2025 年 8 月
18	花田卓司	嘉吉の乱—將軍暗殺と幕府権力の動揺— (日本中世の戦乱—武士の時代を読み解く—)	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座 (前期)、西宮市民会館 (兵庫県西宮市)	2025 年 8 月

19	花田卓司	鎌倉後期の足利氏（鎌倉時代の足利氏―尊氏の祖先とその一族―）	中日文化センター（栄）	2025年7月
20	花田卓司	明徳の乱―足利義満と山名氏の決戦―（日本中世の戦乱―武士の時代を読み解く―）	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座（前期）、西宮市民会館（兵庫県西宮市）	2025年7月
21	花田卓司	南北朝内乱（2）―観応の擾乱―（日本中世の戦乱―武士の時代を読み解く―）	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座（前期）、西宮市民会館（兵庫県西宮市）	2025年6月
22	花田卓司	南北朝内乱（1）―南北朝分裂と室町幕府の成立―（日本中世の戦乱―武士の時代を読み解く―）	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座（前期）、西宮市民会館（兵庫県西宮市）	2025年6月
23	花田卓司	鎌倉前期の足利氏（鎌倉時代の足利氏―尊氏の祖先とその一族―）	中日文化センター（栄）	2025年6月
24	花田卓司	元弘の乱―後醍醐天皇の執念―（日本中世の戦乱―武士の時代を読み解く―）	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座（前期）、西宮市民会館（兵庫県西宮市）	2025年6月
25	花田卓司	承久の乱―後鳥羽上皇と北条義時―（日本中世の戦乱―武士の時代を読み解く―）	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座（前期）、西宮市民会館（兵庫県西宮市）	2025年5月
26	花田卓司	治承・寿永の乱―鎌倉幕府の成立―（日本中世の戦乱―武士の時代を読み解く―）	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座（前期）、西宮市民会館（兵庫県西宮市）	2025年5月
27	花田卓司	平安末期の足利氏（鎌倉時代の足利氏―尊氏の祖先とその一族―）	中日文化センター（栄）	2025年5月
28	花田卓司	保元・平治の乱―平清盛の躍進―（日本中世の戦乱―武士の時代を読み解く―）	西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座（前期）、西宮市民会館（兵庫県西宮市）	2025年5月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
	なし				

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	佐古愛己	東アジアにおける叙任文書と叙任制度の比較史的研究―古代中世日本と唐宋麗を中心に―	基盤研究（C）	2026年4月	2031年3月	研究代表者
2	川崎佐知子	『予楽院殿詩文集』に関する総合的研究	基盤研究（C）	2025年4月	2029年3月	研究代表者
3	大田壮一郎	地方寺院経蔵の再生を基盤とする宗教文化圏の解明	基盤研究（A）	2025年4月	2030年3月	研究分担者
4	中本大	漢画系画題の分析を踏まえた日本文学関連テキストの解析に関する総合的研究	基盤研究（C）	2025年4月	2028年3月	研究代表者
5	川崎佐知子	春日大社所蔵和歌関係資料についての総合的研究	基盤研究（B）	2025年4月	2029年3月	研究分担者
6	中本大	十八世紀画壇と禅宗の関わりの総合的研究―伊藤若冲周辺の画家・禅僧を中心に―	基盤研究（B）	2024年4月	2027年3月	研究分担者
7	岡崎友子	評価性を伴う形式としての指示詞の研究	基盤研究（C）	2023年4月	2027年3月	研究分担者
8	中本大	画題と画論および粉本の生成受容圏から見た中近世文芸の表象と展開に関する総合的研究	基盤研究（B）	2023年4月	2027年3月	研究分担者
9	佐古愛己	古代中世日本における人事昇進制度の体系的把握と日唐宋麗比較史的研究	基盤研究（C）	2021年4月	2026年3月	研究代表者
10	井上充幸	蓬左文庫蔵『銅人経』拓本が秘める歴史資料・史実の徹底解明―古文書学的手法による	基盤研究(A)	2026年4月	2028年3月	研究代表者
11	住吉朋彦	江戸幕府紅葉山文庫の動態研究と発信―宮内庁書陵部蔵漢籍デジタル化に基づく古典学―	基盤研究(A)	2025年4月	2029年3月	研究代表者

12	富嘉吟	『佚存叢書』の成立および中国における流伝	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	研究代表者
13	松尾肇子	王昭君文化の展開	研究成果公開促進費「学術図書」	2025 年 4 月	2026 年 3 月	研究代表者
14	芳村弘道・松尾肇子	『予楽院殿詩文集』に関する総合的研究	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	研究分担者
15	藤田優子	宋・元・明における歌辞文芸の通時的展開に関する研究	若手研究	2024 年 4 月	2028 年 3 月	研究代表者
16	富嘉吟	『玉燭宝典』研究の基礎づくりに向けて	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	研究分担者
17	中原理恵	明清時代の中国における出版、流通事情の研究	若手研究	2023 年 4 月	2028 年 3 月	研究代表者

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	川崎佐知子	春日大社の研究	国文学研究資料館 共同研究（特定研究 地域資料）	2025 年 4 月	2028 年 3 月	研究代表者
2	大田壮一郎	仁和寺上乘院の歴史的研究—中世門跡寺院の構造解明を目指して—	令和 7 年度 仁和伝法所 仁和寺研究促進助成	2025 年 4 月	2026 年 3 月	研究代表者

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
	なし							